東京都
地域の底力発展事業助成

事例集

令和６年２月作成版

東京都生活文化スポーツ局

目　次

● 福生市南田園二丁目町会（福生市） 2
交流イベント・加入促進／地域ふれあいのための納涼大会

● 桜川二丁目町会（板橋区） 4
交流イベント・多文化共生／盆踊りを通した世代間交流及び多文化交流事業

● 杉並区和泉第二町会（杉並区） 6
交流イベント・防災／和泉防災コミュニティー ～顔の見える街づくり～
ユニバーサル野球を楽しもう

● 柳橋町会（台東区） 8
交流イベント・多文化共生／隅田川こいのぼりフェスティバル

● 大宮二丁目自治会（杉並区） 10
防災・多文化共生・加入促進／合同防災訓練と多文化共生社会づくり

● 赤門前町会（文京区） 12
防災・加入促進／高層マンションと地元町会との
災害時協働マニュアルの作成事業

● 赤堤二丁目町会（世田谷区） 14
防災・防犯・多文化共生／防災訓練、防犯パトロールを通した
多文化共生社会への理解促進事業

● 東和一丁目自治会（足立区） 16
見守り／絆・とういちスマイルプロジェクト「高齢者向け体操教室」

● 日野市多摩平１丁目自治会（日野市） 18
デジタル活用／自治会オンライン配信による地域活性化事業

● 下赤塚篠ヶ谷戸町会（板橋区） 20
デジタル活用／地域の魅力を発信するWebサイトの講習会開催事業

交流イベント
加入促進

福生市

福生市南田園二丁目町会

事業名 地域ふれあいのための納涼大会

事業概要

●コロナ禍で中止していた「納涼大会」を4年ぶりに再開。子供が楽しめる多彩な催しを実施し、多くの親子連れが参加。3世帯の新規加入につながった。

●初の取組として小・中学生に「模擬店」のお手伝いを募集。5名がかき氷作りなどを担当し、社会体験の場となった。

実施期間　令和5年6月3日～8月13日
参加人数　納涼大会　延べ約900名
事業総額　約28万1,400円
（地域の底力発展事業助成金　20万円）

役割分担
《 花飾り・納涼大会案内状配布チーム（約40名）》
町会20ブロックのブロック委員、有志で手分けをして花飾りと案内状を住民に配布
《 会場設営・模擬店チーム（約60名）》
町会のスタッフが中心となり、櫓立てやテント張りなどの会場設営、模擬店の運営などを担当

主な経費（助成対象）
● 謝礼金　囃子連への演奏御礼
● 物品購入費
花飾り用部材、町会名入りタオル、模擬店用食材、子供くじ、お楽しみ抽選会景品、チラシ用カラーコピー用紙、チラシ用インクカートリッジ
● 印刷経費
ポスター（A3カラーコピー）印刷費
● レンタル料
かき氷機レンタル料

事業の開始から終了までの主な流れ
令和5年
6月3日　初回打合せ
6月10日　実行役員会、打合せ
6月18日　第1回実行委員会で事業内容を打合せ
7月1日　関係団体・関係者へ納涼大会案内状を送付（50通）
7月9日　第2回実行委員会で役割分担、進捗状況確認
7月15日　花飾り作り、16～18日に個別訪問により納涼大会案内状・花飾り配布
7月16日　ポスター掲示・チラシ回覧
7月22日　公園清掃・会場設営
7月23日・26日　鱒つかみ取り会場の小川清掃
7月29日・30日　夏祭り「納涼大会」開催
8月13日　反省会

25名が参加した花飾り作り。町会加入の各世帯に2本ずつ配布した

事業の実施内容

夏祭り 納涼大会

町会の会員、非会員を問わず地域の誰もが参加して楽しめる内容とし、子供みこしや子供鱒つかみ取り大会など、親子連れの参加で賑わった。お楽しみ抽選会でも子供向けの景品を充実させた。地域で世代間の交流が進み、連帯感が深まった。

子供たちが自由に楽しんだ「落書きキャンバス」

町内を練り歩く子供みこし。子供たちの参加が祭りを盛り上げた

プログラム

●７月29日（土）

11：00　会場開き・開会式
　　模擬店の準備開始
13：00　子供みこし（25名、町内を回る）
14：00　子供鱒つかみ取り大会
　　（子供35名、大人15名（見守り担当））
15：00 ～ 18：00　落書きキャンバス（子供催事）、
　　模擬店（焼きそば、かき氷、ジュース）
18：00 ～ 20：00　太鼓演奏、花火大会

●７月30日（日）

11：00　模擬店の準備開始
13：00　お楽しみ抽選会
　　（多文化共生理解促進チラシを配布）
13：30 ～ 15：00　落書きキャンバス（子供催事）、
　　模擬店（焼きそば、かき氷、ジュース）
15：00　町会長挨拶・終了

鱒のつかみ取りは、その場で塩焼きにして食育の場にもなっている（上）。左は賑わう富士見公園の納涼大会会場

事業による成果・効果

子供たちが参加、社会体験や食育にもつながる催しに

子供たちが楽しく参加できる催しに力を入れ、子育て世帯が親子で多数来場した。

今回、初の取組として、小学校5、6年生、中学生を対象に「模擬店のお手伝い」を募集。子供向けチラシを作成して回覧した結果、5人が応募。かき氷作りや、飲み物のお客さんへの手渡しなどを担当し、「いらっしゃいませ」と元気な声で地域の人たちを迎えて祭りを盛り上げた。会長の撰梅さんは、「昔の子は近所へのお使いなど、よくお手伝いをしましたが、最近はそうした機会が減っています」と説明。世代間交流はもちろん、子供たちの社会体験の場にもなった。鱒のつかみ取りも、子供たちが手にした生きた魚を、係の人がその場で捌いて塩焼きに調理することで、食育にもつながっている。

また、事業終了後、40代の子育て世帯も含めて３世帯が町会に加入。「以前から子育て世帯のつながりを通して加入を呼びかけていた人がいました。今回、夏祭りを楽しんでもらい、町会の役割を理解の上、加入していただけたのだと思います。今後も、子どもを通して加入につなげたいため、小学校との連携に力を入れていきたいです」と撰梅さんは説明する。

事業を振り返って

楽しんでもらう側から楽しませる側へ

記録的な猛暑となった今年の夏。２日目は予定を早め、午後３時に終了するなど変更もあったが、「４年ぶりに納涼大会を開催でき、コロナ禍の閉じこもりで薄れていた住民のつながりを取り戻すことができました」と撰梅会長は語る。「祭りをまず楽しんでもらい、楽しませる側に回って欲しい。そして、自分たちが楽しむことも大切です。子供たちには祭りに参加したことでふるさとの思い出を作ってあげたい。これからも町会活動への共感度を高めていきたい」と目を輝かせる。

「町会の役割を地域の皆さんに知って欲しい」と会長の撰梅さん

交流イベント
多文化共生

板橋区

桜川二丁目町会

事業名

盆踊りを通した世代間交流及び多文化交流事業

事業概要

●町会内在住の外国人や地元高校のボランティア部に参加を呼びかけ、「納涼盆踊り大会」を開催。

●本番前に盆踊り講習会を2回実施し、多くの外国人が参加。当日の踊りの輪にも加わり、他の参加者と交流を深めた。

実施期間　令和５年7月21日～9月16日
参加人数　約160名
事業総額　約21万3,500円
（地域の底力発展事業助成金　20万円）

役割分担
《盆踊り指導係（４名）》町会のリーダー１名、サブリーダー３名が盆踊り練習会を含め踊りの指導を担当
《会場整備・運営（３名）》町会役員が照明、発電機、テント、進行等の会場整備・運営全般を担当
《盆踊り周知（５名）》町会役員・町会員がチラシ配布等を担当

主な経費（助成対象）
● 物品購入費
テント
LED電球
スズランコード（LED電球用コード）

事業の開始から終了までの主な流れ
令和５年
７月21日　初回打合せ。練習日、当日のスケジュール、担当者を決定。
８月10日　盆踊りの練習日を周知
外国人に参加呼び掛け開始
８月20日　外国人を中心に第1回盆踊り講習会
集会所の電源でスズランコードとLEDの点灯確認
８月27日　盆踊り開催を周知
外国人を中心に第2回盆踊り講習会
９月９日～10日　納涼盆踊り大会
９月16日　反省会

外国人に参加を呼び掛けた盆踊り講習会のポスター

事業の実施内容

納涼盆踊り大会

令和5年9月9日（土）、10日（日）の二日間にわたり、納涼盆踊り大会を開催した。開催に先立ち、盆踊り講習会を実施。英語のポスターを作成し、外国人住民にも参加を呼び掛けた。盆踊りには外国人約40人を含む160人が参加。やぐらを囲んで交流をすることで、互いの文化や慣習について理解を深める第一歩となった。

また、今回初めて地元の都立高校に参加を呼びかけた結果、ボランティア部の学生が3名参加。若い世代に町会活動を知ってもらうきっかけとなった。

外国人も参加した盆踊り講習会

多くの外国人が踊りの輪に加わり、町の人たちと交流を深めた

事業による成果・効果

外国人も暮らしやすい環境へ

「町会の納涼盆踊りには、以前から見物に来る外国人がいたため、今年は一歩踏み出し、外国人も参加できる講習会を実施しました。外国人が多く住むマンションに英語が入ったポスターを掲示したり、案内チラシをポスティングした結果、講習会に町内の外国人の方々も参加してくれました」と副会長の尾中さん。「盆踊り当日は、多国籍の外国人が参加し、みんな踊りの輪に入って一緒に盛り上がりました。今回の盆踊りが町内に住む多くの外国人を知る機会となり、また外国人の方々も町内の住民を知るいい機会となったと思います。今後は、町会の行事案内を英文化し、マンション掲示板に掲示することを考えていきたい。相互理解を深めることで、外国人も暮らしやすい環境につなげたい」と語る。

事業を振り返って

若い世代が参加しやすい工夫を

戸建て住宅やマンションが増え続けている桜川二丁目町会。町会では、盆踊りの他スイカ割りやハロウィンなど子育て世帯が楽しめる催しを継続して実施するとともに、小学校の登校班のリーダーを通じて町会の年間行事の周知を依頼。子供の参加のハードルを下げることで、親や祖父母の参加も促している。「引っ越してきた住民の方も、町会がどんなところだろうと盆踊りなどの行事を見に来て、好印象を持ってくれているのだろうと思います」と副会長の尾中さん。その結果、近年新築戸建てに引っ越してきた15世帯のうち、1世帯を除く全世帯が町会に加入している。

「これからは若い世代が受け入れやすいデジタルでの情報提供を工夫していきたい。来年はオンライン役員会を実施して多忙な現役世代役員も参加しやすくし、YouTubeでの視聴もできるようにしたい」と抱負を語る。

交流イベント
防災

杉並区

杉並区和泉第二町会

事業名

和泉防災コミュニティー ～顔の見える街づくり～ ユニバーサル野球を楽しもう

事業概要

- 年齢や障害の有無などに関わらず誰もが楽しめる巨大な野球盤を使い、「ユニバーサル野球」を開催。世代やコミュニティを超えた新たな交流に結び付けた。
- イベント会場では、防災倉庫内の防災備品を紹介。さらに、防災リーフレットを配布し防災意識を高めた。

実施期間　令和4年5月1日～12月6日
参加人数　約60名
事業総額　約23万円
（地域の底力発展事業助成金　19万5,000円）

役割分担
《**計画立案（3名）**》町会まちづくり部部長がユニバーサル野球を提案、町会役員と計画を策定
《**野球盤組立（7名）**》和泉仲通り睦会、町会役員が野球盤組立作業を担当
《**会場運営（39名）**》町会役員（14名）、町会員、和泉仲通り睦会、大人塾連、高校生が会場設営、イベント運営を担当

主な経費（助成対象）
- 打合せ経費　ペットボトル水・お茶（会場準備水分補給・反省会用）
- 印刷経費　チラシ印刷
- 物品購入費　備品（養生テープ・ごみ袋・雑巾等）参加賞
- 役務料　ボランティア保険
- 委託料　チラシデザイン料、実況アナウンサー料
- レンタル・リース料　ユニバーサル野球盤
- 工事費　ユニバーサル野球盤設営費

事業の開始から終了までの主な流れ

令和4年
5月1日　町会役員会にて初回打合せ
6月1日　町会役員会にて参加者チームの構想、協力団体への打診・実施日程を決定
9月1日　当日の機材搬入スケジュール調整と確認
　　神輿の会（睦会）に協力要請
10月1日　回覧板原稿決定
10月7日　チラシデザイン決定、印刷手配
　　スーパー、町会掲示板にチラシ提出
11月1日　町会役員会にて詳細報告・当日の役割分担を決定
11月20日　当日の役割分担の確認、最終打合せ
11月26日　「ユニバーサル野球」実施、反省会

参加募集チラシ

事業の実施内容

年齢や障害の有無などに関わらず誰もが主役になれる「ユニバーサル野球」を開催

試合に参加した皆さん

地域で人々の交流を広げて「顔の見える街づくり」を推進しようと、誰もが主役になれる「ユニバーサル野球」を地元の小学校で開催した。

ユニバーサル野球は、５ｍ四方の巨大な野球盤を使った競技。ひもを引くだけの動作でバットが動いて球が転がる仕組みとなっているため、年齢や障害の有無などに関わらず誰もが楽しめる。

当日は、地元高校生や老人会が参加し、４つのチームを作って２試合を実施。ヒットやホームランが出るたび歓声が沸くなど、応援を通じて世代を超えたコミュニケーションが生まれた。参加者からは、「様々な世代の方から応援されて嬉しかった」「近所に顔見知りの方ができ交流が生まれた」との声が聞かれた。

さらに、防災倉庫を開けて、万一の時の備えについて紹介するとともに、防災リーフレットを配布する取組を実施。住民が多く集まる機会にあわせて防災意識の向上を図った。

当日は、地元の神輿の会（和泉仲通り睦会）や地域団体なども手伝い、新たな交流が生まれた。

事業による成果・効果

新たな連携・交流を広げるきっかけに

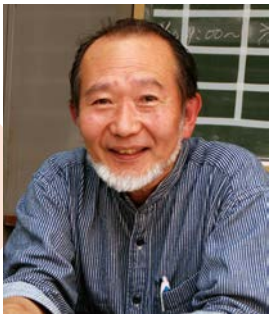
「地元高校の生徒も15名ほど参加してくれました。競技に参加した人も応援した人も、世代やコミュニティの違いを超えて、心を一つにして楽しめました」と町会まちづくり部部長の岩崎さんは笑顔で語る。終了後の反省会では、「毎年恒例の催しに育てよう」という意見が出され、地域交流の活性化や町会への加入促進につながるイベントとなる可能性を実感している。

また、企画や運営に関わった地元の神輿の会や杉並区大人塾の卒業生とは交流が深まり、今後、イベントなどでコラボレーションを進めていく足がかりとなった。

事業を振り返って

心と心がつながる街づくりを

「この野球盤はひもを引くだけでバットを振ることができ、誰もが楽しめます。今回はおばあさんが２打席連続ホームランを打って試合を決めるなど、応援している人たちもすっかり夢中になりました」とユニバーサル野球実施を提案した岩崎さん。「地域活動では、遊びや楽しさを取り入れていくことも必要だと考えます。人は結局、心が大切です。世代や立場の違いを超えて、少しずつでも心と心のつながりをつくって、地域の交流を深めていきたい」と話す。



ユニバーサル野球の提案をした町会まちづくり部部長の岩崎さん

交流イベント 多文化共生

台東区

柳橋町会

事業名 隅田川こいのぼりフェスティバル

事業概要

●隅田川テラス（柳橋地区）を会場に「隅田川こいのぼりフェスティバル」を開催。ゴールデンウィーク中の2日間、多彩なイベントを展開し、子育て世帯が多数参加した。

●町会内のビジネスカレッジに通う海外からの留学生がボランティアとしてイベント運営に参加。日本文化に触れるとともに町会員やフェスティバル参加者たちと交流し、多文化共生につなげた。

実施期間　令和5年4月1日～5月26日

参加人数　来場者 4月29日約700名、5月5日約300名
その他期間の見学者 約200名

事業総額　約56万7,500円
（地域の底力発展事業助成金　49万7,000円）

役割分担

《企画・広報（3名）》町会役員１名と町会員２名がチラシ制作等を担当

《記録（3名）》町会役員３名が撮影等行事の記録を担当

《設営・運営（約40名）》町会役員と外国人留学生ボランティア20名がテント設営、イベント等を担当

主な経費（助成対象）

- 謝礼金　バルーンアート
- 打合せ経費　ペットボトルお茶
- 物品購入費　子供おもちゃ・菓子（景品）、PCインク・文房具備品、折り畳み簡易テント、テント用水錘
- 印刷経費　チラシ印刷費
- 役務費　団体賠償保険2種、警察道路使用許可証
- レンタル・リース料　着ぐるみ
- 工事費　こいのぼり展示足場

事業の開始から終了までの主な流れ

令和5年
4月3日　第１回打合せ（同14日に第2回、24日に第3回実施）
4月4日　町会ホームページに「こいのぼりフェスティバル開催のお知らせ」をアップ
4月7日　浅草橋南部13町会の会議で掲示板へのポスター貼り出しを依頼、近隣の小学校・幼稚園・保育園にチラシを配布、町会内のビジネスカレッジに外国人留学生ボランティアの参加を要請
4月15日　幟旗36本を町内に設置
4月24日　こいのぼりの櫓を業者が設置
4月29日～5月5日　こいのぼり展示
4月29日、5月5日　「隅田川こいのぼりフェスティバル」事業実施
5月26日　反省会

「隅田川こいのぼりフェスティバル」のチラシ

事業の実施内容

「隅田川こいのぼりフェスティバル」を開催

多くの家族連れで賑わい、町会活動への理解が広がる

４月29日（土）、５月５日（金）の両日、隅田川テラスにて開催されたフェスティバルでは、スタンプラリー、こいの腹くぐり、バルーンアートなどの子供たちが楽しめる多彩なイベントを実施した。

初日の開会式では、こいのぼりの掲揚に合わせて地元小学校の金管バンドが演奏を披露。各イベントに行列ができる賑わいとなった。

来場者数は、イベントを実施した両日合計で約1,000名。当初予想より３割多く、家族連れが多数訪れ大盛況となった。

また、学校創設以来、10年以上交流を深めてきた町内会のビジネスカレッジに今年も協力を要請。海外からの留学生20名が参加し、会場の設営を手伝ったほか、金太郎や熊の着ぐるみに入って子供たちと記念撮影の相手をするなど、２、３人ずつに分かれてイベントを盛り上げた。さらに、スタッフと協力し、参加した子供たちの安全を見守るなど、町会の人たちとも交流を深めた。

予想を超す来場者で大盛況となった会場（隅田川テラス）

事業による成果・効果

子育て世代に町会活動をアピール、国際交流にも一役

かつては高級料亭が軒を連ねた柳橋。今はそうした街並みが姿を消し、オフィスビルやマンションが集積。職場に近いことなどを理由に子育て世帯が増えている。副会長の大沼さんは「子供と一緒に若い親御さんが多数参加され、町会活動に理解を深めていただきました」と語る。

また、町会内のビジネスカレッジから留学生20名がボランティアとして参加。準備が始まる朝９時には姿を見せ、高齢者の多い町会には力強い助っ人となった。「東南アジアからの学生が多いのですが、皆さん日本文化に興味があり、楽しみながら参加してくれました。私たちも、それぞれの国の文化を教えてもらいました」と大沼さん。国際交流、多文化共生にも一役買っている。

事業を振り返って

長い目で見た担い手の育成が必要

「町会役員の高齢化が進み、会場設営などには苦労しました」と副会長の大沼さん。町会の担い手については、「勧誘して入っていただいた30代の町会役員がいて、今回、手伝いをしてくれる同世代の友人を誘って来てくれました。そして、これからも仲間を誘いたいと言っています」と手応えを感じている。「今後、子育て世帯により広く働きかけて、若手ボランティアを募集したい。若い世代は共働きが多いので、まず参加できる時だけ来てもらい、それぞれ得意なことで手伝ってほしい。すぐに結果を求めるのではなく、長い目でみて手を打っていきたい」と語る。

「柳橋では子育て世帯が増え、年末の夜回りでも拍子木を叩いて子供たちが喜んで参加します」と笑顔を見せる。様々な行事を通して「粋な町、柳橋」の風情を伝えながら町会の活性化を図っていきたいという。

「子供の参加が増えています」と副会長の大沼さん

杉並区

大宮二丁目自治会

事業名 合同防災訓練と多文化共生社会づくり

事業概要

●隣接町会である大宮会との共催により、首都直下型地震を想定した合同防災訓練を実施。ハロウィン行事と連携させることで、親子連れの参加を促した。

●訓練告知ポスターは英語版を用意し、在住の外国人にも参加を案内。訓練会場では外国人や子供にもわかりやすいようひらがな表示を行い、参加者同士の交流につなげた。

実施期間　令和４年６月５日～11月13日

参加人数　合同防災訓練参加者　205名

事業総額　約49万1,100円

（地域の底力発展事業助成金　47万9,000円）

役割分担

《スタンドパイプ放水訓練（3名）》消防団員（大宮会会長）が訓練指導。町会員が補佐。

《AED操作訓練（２名）》町会員２名が訓練受付を担当（指導は消防職員）

《会場設営、受付、防災物品の操作指導等（10名）》大宮二丁目町会・大宮会より計10名が訓練の進行、防災倉庫内備品の操作等を指導

事業の開始から終了までの主な流れ

令和４年

６月５日　拡大役員会にて事業申請を承認
７月10日　合同防災訓練と多文化共生社会づくり計画案作成
７月23日　第１回打合せ、助成事業の説明
９月30日　自治会だよりで合同防災訓練実施予定を告知
10月８日　物品購入手配、印刷物準備開始
10月20日　自治会掲示板、役員宅に合同防災訓練告知ポスターを掲示
10月23日　第２回打合せ
10月30日　ハロウィン行事で合同防災訓練への参加を呼び掛け
11月１日　自治会会員外の世帯を訪問し、合同防災訓練への参加を呼び掛け
11月３日　第３回打合せ
11月５日　自治会内を車で巡回し、合同防災訓練への参加を呼び掛け
11月６日　合同防災訓練の実施
11月13日　反省会

主な経費（助成対象）

● 打合せ経費　ペットボトルお茶

● 物品購入費

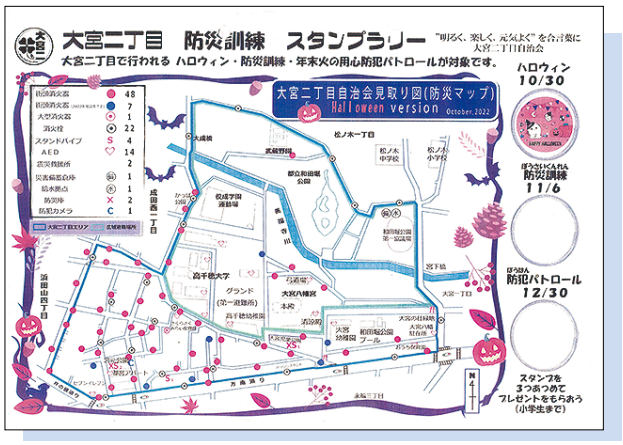
安否確認訓練用タオル、マンホールトイレ・テントセット、ワンタッチトイレセット、備蓄ラジオライト、防災訓練用ブルゾン・キャップ、スマートエージェンシーボトル（参加賞）、単四乾電池（参加賞）、参加者水分補給用飲料　等

● 印刷経費

多文化共生推進チラシ、安否確認訓練協力依頼チラシ、大宮二丁目防災マップ

● 役務料　イベント傷害保険

● レンタル・リース料　打合せ会議室使用料



ハロウィンで子供たちに配布した防災マップ。スタンプラリーを取り入れ防災訓練への参加を呼び掛けた

事業の実施内容

首都直下地震を想定した合同防災訓練の実施

大宮会との合同防災訓練は令和４年度で４回目。区・消防・警察などの協力を得て、安否確認訓練、放水訓練、ＡＥＤ操作訓練、簡易トイレの設営訓練等を行った。

訓練実施に当たり、参加者募集に力を入れた。自治会だよりや掲示板での周知のほか、自治会会員以外のお宅を訪問し、訓練の案内チラシをポスティングして参加を呼び掛けた。また、訓練の1週間前に子供向けハロウィン行事を開催。「合同防災訓練・年末の防犯パトロールに参加してスタンプをもらうと参加賞がもらえる」というスタンプラリーカードを兼ねた防災マップを子供たちに配り、訓練への参加を呼び掛ける工夫も初めて行った。

また、多文化共生社会づくりに向けた取組も実施。訓練では、外国人や子供にもわかりやすいように、ひらがな表示の案内板を掲示した。周知においても、英語版の合同防災訓練告知ポスターを自治会内の掲示板に掲示したほか、外国人在住のシェアハウスにも配布。これにより外国人住民が訓練に参加し、ＡＥＤの操作訓練などを一緒に行った。

さらに、玄関前などに黄色いタオルを掲げて無事を知らせる安否確認訓練では、自治会が把握している高齢者世帯でタオルが出ていない場合には声がけを行い、高齢者の見守り活動にもつなげた。

地元公園を拠点に実施した合同防災訓練の様子。右は英語版の合同防災訓練告知ポスター

事業による成果・効果

周知の工夫により訓練参加者が倍増
外国人も参加し多文化共生社会づくりの第一歩に

「私たちの自治会では、大宮会と力を合わせ、子供から高齢者まで各世代が参加できる活動に力を入れています。年齢層ごとに取組を工夫していますが、今回、子供ハロウィン行事と連携させたことで良い効果が生まれたと思います。合同防災訓練の参加者が205名と前年度に対して倍増しました」と会長の飯田さんは笑顔を見せる。防災訓練1週間前に実施した子供ハロウィンに参加した90人のうち、約５割の43人が防災訓練にも参加。親子連れで参加する世帯が増えた。

また、自治会会員以外の世帯にも周知したことにより、訓練をきっかけに３世帯が自治会に新規加入。外国人在住のシェアハウスにもチラシを配布したことで外国人住民も訓練に参加するなど、多文化共生社会づくりの第一歩にもつながった。

事業を振り返って

若者や近隣の団体など多くの協力に感謝
取組の継続を目指す

「今回、大学２年生をリーダーとした小学６年生までの有志９名が、事前の準備段階から当日の会場設営や運営、後片付けに至るまで率先して活躍してくれました。将来の自治会の担い手として多いに期待できます」と会長の飯田さん。また、「訓練では毎年、行政関係のほか、近隣の高千穂大学やスーパー、コンビニも協力してくれ、感謝しています」と語る。

「AEDの操作にしても一度習っただけでは忘れてしまう。地域で連携し、継続的に続けていきたい」と話す。

「より安心して安全に暮らせる地域へ、絆づくりを進めたい」と会長の飯田さん

防災
加入促進

文京区

赤門前町会

事業名

高層マンションと地元町会との災害時協働マニュアルの作成事業

事業概要

●高層マンションと地元町会との災害時における協働体制の構築を目指し、ＮＰＯと連携して災害時の協働に関するアンケート調査等を実施。

●調査結果をふまえたワークショップで両者の協働について検討。得られた成果をまとめて町会区域内の全戸へ配布することで、町会への加入促進につなげていく。

実施期間　令和４年7月２日～令和５年３月11日

参加人数　講演会参加17名、アンケート回答94名、ワークショップ参加７名

事業総額　約26万8,800円
（地域の底力発展事業助成金　25万9,000円）

役割分担

《**計画立案（８名）**》町会役員（NPO役員含む）で協議し調査の実施方法等、事業内容を決定

《**調査票作成（８名）**》町会役員（NPO役員）が調査を設計し調査票を作成

《**チラシ・調査票配布（約10名）**》８地区の担当者等が手分けをしてチラシ・調査票を配布

《**講演会・ワークショップ運営（8名）**》町会役員が運営を担当

主な経費（助成対象）

● 謝礼金　災害専門家講師料

● 打合せ経費　ペットボトルお茶

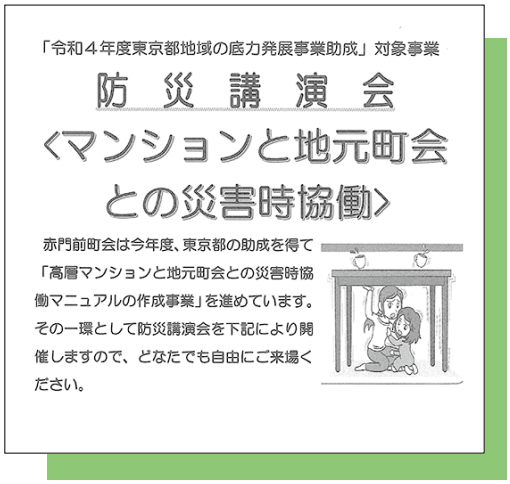
● 物品購入費　参加賞配布用レジ袋、模造紙、付せん等

● 印刷費
ポスター、チラシ、アンケート票、封筒、配布資料、ワークショップ開催案内

● レンタル・リース料
会場利用料（講演会、アンケート結果報告、ワークショップ、反省会会場等）

事業の開始から終了までの主な流れ

令和４年
７月２日　事業全体企画会議
７月４日　講演依頼、講演内容について打ち合わせ
７月11日　講演会チラシ配布、ポスター掲示
７月23日　防災講演会開催
８月６日　アンケート調査企画会議
８月27日　アンケート票配布
11月10日　アンケート調査結果報告会、チラシ配布・ポスター掲示
12月３日　アンケート調査結果報告会開催、ワークショップ企画会議
令和５年
１月10日　ワークショップチラシ配布、ポスター掲示
１月13日　「アンケート調査結果報告書」配布
１月28日　ワークショップ開催
２月20日　「マンションと地元町会との災害時協働の基本的事項」配布
３月11日　反省会


「令和４年度東京都地域の底力発展事業助成」対象事業
防　災　講　演　会
〈マンションと地元町会との災害時協働〉
赤門前町会は今年度、東京都の助成を得て「高層マンションと地元町会との災害時協働マニュアルの作成事業」を進めています。その一環として防災講演会を下記により開催しますので、どなたでも自由にご来場ください。

防災講演会のチラシ

事業の実施内容

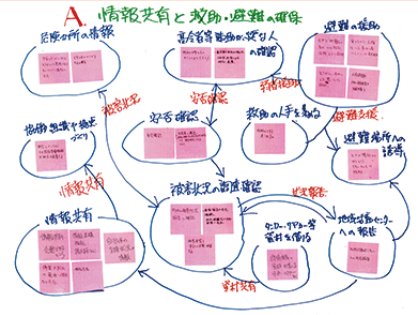
マンションと地元町会－災害時の協働体制構築に向けた取組の実施

ＮＰＯとの連携により、「マンションと地元町会の災害時協働」をテーマに講演会を開催。災害対策と共助の重要性について講演した。

続いて、災害時のマンションと地元町会の協働について住民アンケート調査を実施。調査票はマンション、地元町会の区域内の住民の合計３５４世帯に配布した。その結果、マンション、地元住民ともに、乳幼児、高齢者、障害者などの災害避難困難者が３割以上いることが分かった。また、マンション住民は災害時の情報・物資の支援に、地元町会員は人的支援に強い関心を示したものの、両者とも平時における親睦や付き合いについてはさほど興味を示さなかった。

そこで、両者の親睦を深めるため、「マンションと地元町会員の協働を進めるためのワークショップ」を開催。大震災が起こった際に、町会とマンションとが協働で行うべきことや方法、また、平時において町会とマンションが意思疎通を図るための方法について検討・提案し、最終的に「マンションと地元町会との災害時協働の基本的事項」としてまとめ、町会区域内の全戸に配布した。

令和４年７月23日（土）
防災講演会 開催



ワークショップの様子。付箋を使い課題を整理

８月27日（土）
住民アンケート調査実施
マンション254世帯、一般町会100世帯に調査票を配布。

12月３日（土）
アンケート調査結果報告会開催

令和５年１月28日（土）
ワークショップ 開催

２月20日（月）
「マンションと地元町会との災害時協働の基本的事項」を全戸配布

事業による成果・効果

災害への居住者意識を把握、協働体制構築の第一歩に

東京大学本郷キャンパスに向かい合う赤門前町会。「古くからの店舗がなくなり、大規模マンションが複数建ちました。マンションの管理組合には問題意識のある理事長もいて、災害時に町会とどのように助け合いをすればいいか、話し合いを続けてきました」と町会長の小野寺さん。今回実施した調査では、避難困難者の存在や住民意識の違いなどが分かった。「まずは互いが顔見知りになることが重要」など、災害時の連携等に関する提案内容を町会区域内の全世帯に広く配布したことで、今後のマンションと町会の協働体制構築に向けた第一歩につなげることができた。

事業を振り返って

今後の防災活動や町会への加入促進に活かしていきたい

会長の小野寺さんは、「アンケート結果を踏まえ、災害時の町会とマンションの協働や平時から親睦を深める方法について検討しました。その成果を活かして町会とマンションが連携して安否確認や避難の支援を行うなどより実効性のある防災訓練の実施につなげたい」と語る。マンションに越してくる子育て世代もいて、町会では花火大会、餅つき大会など家族で楽しめる催しに力を入れている。「災害時の連携を呼び掛けながら交流を広げ、町会への新規加入も増やしたい」と小野寺さんは話す。

町会長の小野寺さん（左）と事業の企画で中心的な役割を果たした岩田さん

世田谷区

赤堤二丁目町会

事業名 防災訓練、防犯パトロールを通した多文化共生社会への理解促進事業

事業概要

- 7月を町会の多文化共生月間と位置づけ、イベント周知チラシにやさしい日本語と英語を表記。外国人にも参加を呼び掛けた。
- 防災訓練に参加した住民に「やさしい日本語」について説明を行うなど、多文化共生に向けた取組について理解を深めた。

実施期間　令和5年6月10日～8月12日
参加人数　見守りパトロール20名、防災訓練150名
事業総額　50万500円
（地域の底力発展事業助成金　20万円）

役割分担
《チラシ制作（2名）》町会役員が原案を作成。英文・やさしい日本語の表記は、せたがや国際交流センターが協力
《防災訓練（約10名）》防災防犯部長を中心に町会役員が消防署・消防団への協力依頼、当日の運営を担当

主な経費（助成対象）
- 物品購入費　ユニフォーム（ビブス）
- 印刷経費　回覧チラシ、掲示板チラシ

事業の開始から終了までの主な流れ

令和5年
6月10日　初回打合せ
　　世田谷区・消防・警察への依頼内容を決定
6月15日　せたがや国際交流センターに参加者募集チラシの英文・やさしい日本語表記の協力を依頼
　　同センター制作の「やさしい日本語説明チラシ」「外国人ヘルプカード」の提供を依頼（防災訓練参加者配布用）
7月8日　事業当日のスケジュールと役割分担を決定
　　チラシ、ポスター、回覧板による事業周知を開始
7月27日　見守りパトロールを実施
7月30日　防災訓練を実施
8月12日　反省会

「せたがや国際交流センター」の協力を得て制作したチラシ。やさしい日本語と英文を使用

事業の実施内容

見守りパトロール、防災訓練で「多文化共生」へ理解を呼び掛け

7月は町会「多文化共生月間」

7月を町会の「多文化共生月間」と位置づけ、イベント周知チラシにやさしい日本語と英文を表記。回覧板や掲示板へ掲示することで、外国人にも防災訓練と見守りパトロールへの参加を呼び掛けた。

令和5年7月27日

見守りパトロール

毎月第2、第4木曜日に見守りパトロールを実施。登下校中の子供たちへの声掛けや、人通りの少ない路地の見回りなどを通し、安全安心なまちづくりを目指している。

「AKATSUTSUMI」と英文字表記したユニフォームを着用し、約20名が参加

令和5年7月30日

防災訓練

毎年7月と12月の2回、防災訓練を実施。今回は消防署、消防団の協力のもと、消火器、スタンドパイプを使った初期消火訓練を実施し、約150人が参加。国際交流センターの協力のもと、参加者にやさしい日本語についてのチラシを配布して説明するとともに、災害・急病など緊急時の対応や日本人に支援を求める際の会話集などを多言語でコンパクトに記載した「外国人へルプカード」の配布を行った。

防災訓練の様子

事業による成果・効果

多文化共生に向けた更なる取組への第一歩に

7月の多文化共生月間に様々な取組を行った赤堤二丁目町会。町会員には国際結婚で暮らす外国人住民がおり、今回の町会の取組について「とても大事な取組」と評価の声が寄せられた。また、町会員にも、町会が多文化共生を進めていることや、やさしい日本語の取組などについて理解を深めてもらうことができた。

やさしい日本語や英語を使ったチラシ制作を通じ、今回初めてせたがや国際交流センターとつながりができた。「今後に向けた協力関係の基盤ができました」と会長の高橋さん。多文化共生に向けた更なる取組への第一歩となった。

事業を振り返って

多文化共生を基本とした町会活動へ

日頃から防犯パトロールや防災訓練に力を入れている赤堤二丁目町会。「災害時などに、外国人住民の方も言葉の壁を越えてすぐに避難できるような取組が必要。今後の町会活動は多文化共生を基本にしたい」と会長の高橋さん。今回、町会役員もその考えに賛同し、多文化共生に取り組んだ。避難所の運営で連携している近隣２町会も、今回の赤堤二丁目町会の取組を知り、多文化共生の活動を推進することにしたという。

「より住みやすい街づくりへ、町の皆さんと議論を深めながら、多文化共生を共通の理解としていきたい」と高橋さんは話す。

「多文化共生を基本にしたい」と会長の高橋さん

見守り

足立区

東和一丁目自治会

事業名

絆・とういちスマイルプロジェクト「高齢者向け体操教室」

事業概要

●地域の高齢者を対象に、包括支援センターと連携して筋力向上と介護・認知症予防を目的とした「絆・たいそう教室」を実施。

●高齢者の外出の機会を創出して閉じこもりを防止しコミュニケーションを活性化するとともに、近年希薄化しつつある地域コミュニティの再構築を図る。

実施期間　令和4年7月1日～令和5年3月25日
参加人数　実施回数5回　延べ参加人数125名
事業総額　約26万6,100円
（地域の底力発展事業助成金　20万円）

役割分担
《**計画・運営（4名）**》町会役員が企画・書類作成・会場等準備・教室運営を担当
《**指導者（3名）**》スポーツボランティア・スポーツ推進委員などが参加者一人ひとりの体力に適した運動を指導
《**募集チラシ配布（4名）**》町会役員、包括支援センター職員が高齢者宅の個別訪問などを通して参加者募集チラシを配布

主な経費（助成対象）
● 謝礼金
指導謝礼（4回）
指導補助謝礼（5回）
● 物品購入費
転倒予防器具、イガイガボール、カセットデッキ、ソフト平均台
● 印刷経費
チラシ製作・印刷費
● 委託料
動画編集費

事業の開始から終了までの主な流れ
令和4年
7月1日　包括支援センター「東和」との打合せ
8月21日　担当講師及びスタッフとの打合せ
9月5日より　参加者募集チラシ配布、掲示板、回覧板で周知
9月24日　第1回「絆・たいそう教室」開催（参加者数38名）
10月22日　第2回（参加者数30名）
11月26日　第3回（参加者数23名）
令和5年
2月25日　第4回（参加者数23名）
3月25日　第5回（参加者数11名）
反省会

皆で体を動かしながら会話も弾む

事業の実施内容

「絆・たいそう教室」を開催

高齢者に外出の機会を創出
閉じこもり・認知症を予防していきいき元気に！

地域に住むシニアのための体操教室。１回１時間、計５回開催し、毎回20～40人程度が参加した。参加者募集は、包括支援センター「東和」の協力により、高齢者宅を戸別訪問してチラシを配布。参加は無料。参加しやすいように、事前の申し込みは不要とし、友人を誘っての参加を呼び掛けた。

当日の実施例

第１回は「〝脳トレ〟ウォーキング」と題して、地元小学校の体育館で開催した。〝脳トレ〟ウォーキングは、会話をしながら少し早く歩くなど、脳の働きを刺激する歩行運動。

内　容	時　間
体調確認	５分
ストレッチ	15分
バランスアップ体操	10分
〝脳トレ〟ウォーキング	20分
整理体操（深呼吸）	５分
合　計	55分

ウォーミングアップ運動とスクワット

活動の様子を撮影編集し、自治会のホームページで公開。フレイル予防の取組を地域に発信

事業による成果・効果

高齢者が外に出て活動の輪を広げる原動力に

「絆・たいそう教室」を考案した会長の神谷さんは、「地域包括支援センター「東和」の職員が高齢者宅を戸別訪問して案内のチラシを配布したことにより、多くの高齢者の参加につながった」と話す。

体操教室をきっかけに、昔馴染みの方と途切れていた交流が再開したり、ごみ拾いイベントや別の体操教室にも参加するようになるなど、地域で高齢者のコミュニケーションの輪を広げる原動力となり、高齢者の閉じこもり防止や見守りにもつながっている。さらに、会場では防災や防犯に関する情報提供も実施。実際に地元で発生した詐欺事件について情報を共有するなど、より安全・安心に暮らせる地域づくりへの機運も高まっている。

事業を振り返って

地域力向上のモデルを創出したい

神谷会長は、スポーツ・運動分野の企業に長年勤務。高齢者の運動機能の維持向上を目的に活動する一般社団法人でアドバイザーを務めてきた経験から、今回の「絆・たいそう教室」の運動メニューを提案。「介護、認知症予防に効果的な高齢者により適した運動はこうした方が良いという内容を具体化しました」と話す。地元小学校を活動場所にしていることもあり、「PTAと協力して、例えばペットボトルロケットなど親子で楽しめる催しも実現させたい」と神谷さん。「子供から高齢者まで足を運びやすく、災害時には避難所にもなる小学校を拠点に、地域の底力を高めるモデルを創出できるのでは」と夢は膨らむ。

スポーツ・運動に専門知識を持つ会長の神谷さん

デジタル活用

日野市

日野市多摩平１丁目自治会

事業名

自治会オンライン配信による地域活性化事業

事業概要

●自治会活動や地域情報の発信者となる人材を育成するため、動画の企画から撮影、動画サイトへの配信までの一連を学ぶ講習会を開催。

●発信力の強化により地域住民の交流を増やすとともに、自治会員の増加にもつなげることを目指す。

実施期間　令和５年９月14日～12月20日

参加人数　49名

事業総額　20万3,400円
（地域の底力発展事業助成金　20万円）

役割分担

《計画立案・運営（５名）》自治会役員、有志が実施計画作成、講師依頼等を担当

《実行チーム（４名）》自治会役員、有志が映像・音響、司会、広報、配信等を担当

主な経費（助成対象）

● 謝礼金　ポスター・チラシデザイン謝礼、講師謝礼

● 物品購入費
スマホ用ジンバルスタビライザー
ワイヤレスマイク

● 印刷経費　チラシ、ポスター

● レンタル・リース料
映像機材・音響機材レンタル費

事業の開始から終了までの主な流れ

令和5年

７月７日　初回打合せ

８月23日　役員打合せ
（実施スケジュールなど決定）

９月11日　事業周知（チラシ、ポスター掲示）

９月14日　第１回動画活用セミナー開催

９月21日　第２回動画活用セミナー開催

11月20日　第３回動画活用セミナー開催

11月26日　第４回動画活用セミナー開催

11月30日　第５回動画活用セミナー開催

12月６日　地域店舗への取材実施
反省会

第5回動画活用セミナーの様子

事業の実施内容

地域情報の発信に向けた「動画活用セミナー」の開催

デジタルでの情報発信を担う人材を育て、地域の情報を広く発信していく体制を整えることを目指し、「動画活用セミナー」を開催。延べ49名の参加者が、動画の企画から撮影、編集、発信までの一連の流れを全５回の講習会で学んだ。

セミナーでは、自治会が行う地域一斉清掃において自治会役員にインタビューを行い、YouTubeで配信。配信内容を地域住民に視聴してもらえるよう、チラシやポスターで周知を行った。

一斉清掃活動で自治会役員にインタビューし、YouTubeで配信

https://www.youtube.com/playlist?list=PL4tno0pKu-g8SK4bW8JTX_qpcra6xFgi9

セミナーの内容

1. YouTubeチャンネルでの発信内容を決定（令和５年９月14日）
2. 動画の企画を立て、撮影方法を決定（９月21日）
3. 動画の撮影方法、SNSやメールを使った動画の共有方法を学習・体験（11月20日）
4. 地域一斉清掃活動の動画取材を実践。動画をYouTubeで配信（11月26日）
5. 講師３人を招き、動画を活用した今後の取組について検討（11月30日）

事業による成果・効果

デジタルでの情報発信の第一歩に

セミナーの参加者が動画の作成から発信までの流れをマスターすることができた。今後、自治会のイベントや地元商店街の活動などについて発信する計画が立てられるなど、地域の情報を継続的に広く周知していく体制ができた。

また、事業を進めていく中で、セミナーの参加者や取材先の方とＬＩＮＥでつながることができ、今後の取組の意見交換や、活動内容の案内などをＬＩＮＥで発信できるようになった。今回の事業の推進役となった自治会員の壷井さんは、「若い子育て世代や中高生などとも積極的につながるようにし、ＬＩＮＥでの情報発信も行っていきたい」と意気込んだ。

事業を振り返って

自治会員の増加にもつなげていきたい

「今回、自治会役員にインタビューするなかで、災害時における自治会の役割について初めて知ることができました。動画を活用し、自治会活動を広く周知することの大切さを実感しました」と壷井さん。「動画をたくさんの人に見てもらう喜びを知ってもらい、情報の発信者を増やしていきたい。地元の商店や企業などとも連携して動画を発信することで地元を盛り上げ、住民同士の交流を増やすとともに、自治会員の増加にもつなげていきたい」と抱負を語った。

デジタル活用

板橋区

下赤塚篠ヶ谷戸町会

事業名

地域の魅力を発信するWebサイトの講習会開催事業

事業概要

●Webサイトの開設後、更新がスムーズにできない現状を克服するため、「Webサイト講習会」を全15回開催。サイトの作り方から記事の投稿、編集までの一連の流れを学んだ。

●地域の活性化や町会への新規加入に結びつけるため、「Webサイト編集委員会」を発足。継続的にWebサイトを更新管理する体制を構築した。

実施期間　令和４年10月15日～令和５年２月25日

参加人数　Web講習会　延べ93名

事業総額　約21万100円
（地域の底力発展事業助成金　20万円）

役割分担

《**計画立案（６名）**》副会長及び町会三役が実施内容、日程を立案

《**講習用マニュアル作成（１名）**》副会長がマニュアル執筆を担当

《**実行チーム（2名）**》町会会員が会場設営・撤去を担当

事業の開始から終了までの主な流れ

令和４年
10月15日　初回打合せ
10月16日　講師と打合せの上、チラシ、操作活用マニュアルの作成を開始
10月22日　町会各世帯へチラシを回覧、掲示板に掲示、Webサイトから参加者募集を開始
10月23日以降　Webサイトから随時参加を受付
10月中に参加10名を受付
11月５日　第１回「Webサイト講習会」を開催。以降、令和５年２月25日まで毎週土曜日（12月24日、年末年始除く）に全15回開催

令和５年
２月25日　反省会

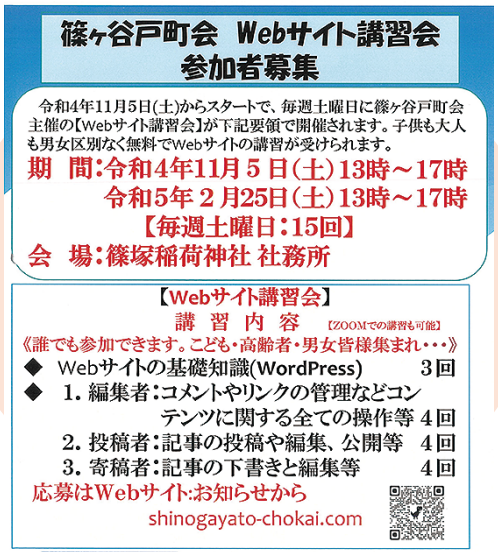
主な経費（助成対象）

● 謝礼金
Webサイト技術者講師料

● 印刷経費
受講生募集用チラシ、受講生用テキスト印刷費

● 委託料
電源配置及び撤去

● レンタル・リース料
パソコンレンタル、Wi-Fi使用料



参加者募集のチラシ

事業の実施内容

「Webサイト講習会」を開催

町会サイトを自ら管理して地域の課題解決へ

開設後、更新がうまくいっていない町会Webサイトの維持管理を町会員自らできるようにするため「Webサイト講習会」を開催。

参加者の年齢層は50～70代。10名が参加し、Webサイトの作り方から記事の編集、投稿までを学んだ。参加者それぞれが発信役となることで、情報発信を強化することを目指した。

講師の三次さんの説明に熱心に聞き入る参加者の皆さん

講習の内容

令和４年11月５日から令和５年２月25日までの毎週土曜日、１回当たり４時間にわたり開催。講師を招き、Webサイトの制作・管理でよく使われているワードプレス（WordPress）を以下の順でマスターした。

- Webサイトの基礎知識（３回）
- Webサイトの管理と操作（4回）
- 記事の投稿や編集、公開など（4回）
- 記事の下書きと編集など（4回）

事業による成果・効果

「Webサイト編集委員会」を設置して発信体制を構築

講習会参加者は、投稿の仕方や記事の編集方法など、Webサイトを実際に更新して情報を発信する技術を身につけた。

講習会終了後、参加者7名を含む、「Webサイト編集委員会」を設置。今後も月1回程度、編集委員会を開催していくこととし、Webサイトを定期的に更新、管理する体制を整えた。「子どもから高齢者まで、誰もが楽しく閲覧できるサイトとして、地域の活性化と町会員の新規加入に結び付けていきたい」と副会長の髙尾さんは話す。

事業を振り返って

より円滑に更新できるように皆でさらに上達したい

「町の活性化では、社会経験の豊富な私たち高齢者からもアイデアを出せます。シニアパワーで地域にイノベーションを起こしたい」と講師を務めた三次さん。副会長の髙尾さんは、「Webサイトをよりスムーズに更新できるように、ワードプレスの使い方を皆で上達させていくことが欠かせません。定年退職したばかりでWebに関心があり、地域の役に立ちたいという人もいるはず。女性の活躍も期待したい」と今後について話す。

左から講師の三次さん、副会長の髙尾さん、Webサイト編集委員長の日野さん

MEMO

MEMO

MEMO

事業の詳細はホームページをご覧ください

https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/chiiki_tabunka/chiiki_katsudo/chiikiryoku/0000000717.html

地域の底力

東京都の公式LINE

東京都の公式情報をタイムリーにお知らせ

電話相談窓口 03－5388－3166

東京都生活文化スポーツ局 都民生活部 地域活動推進課 地域活動支援担当
住　所　〒163 -8001　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
ＦＡＸ　03-5388-1331
メール　S1121202@section.metro.tokyo.jp

東京都生活文化スポーツ局
令和6年2月　東京都発行（5）57号

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。
R60
古紙パルプ配合率60％再生紙を使用